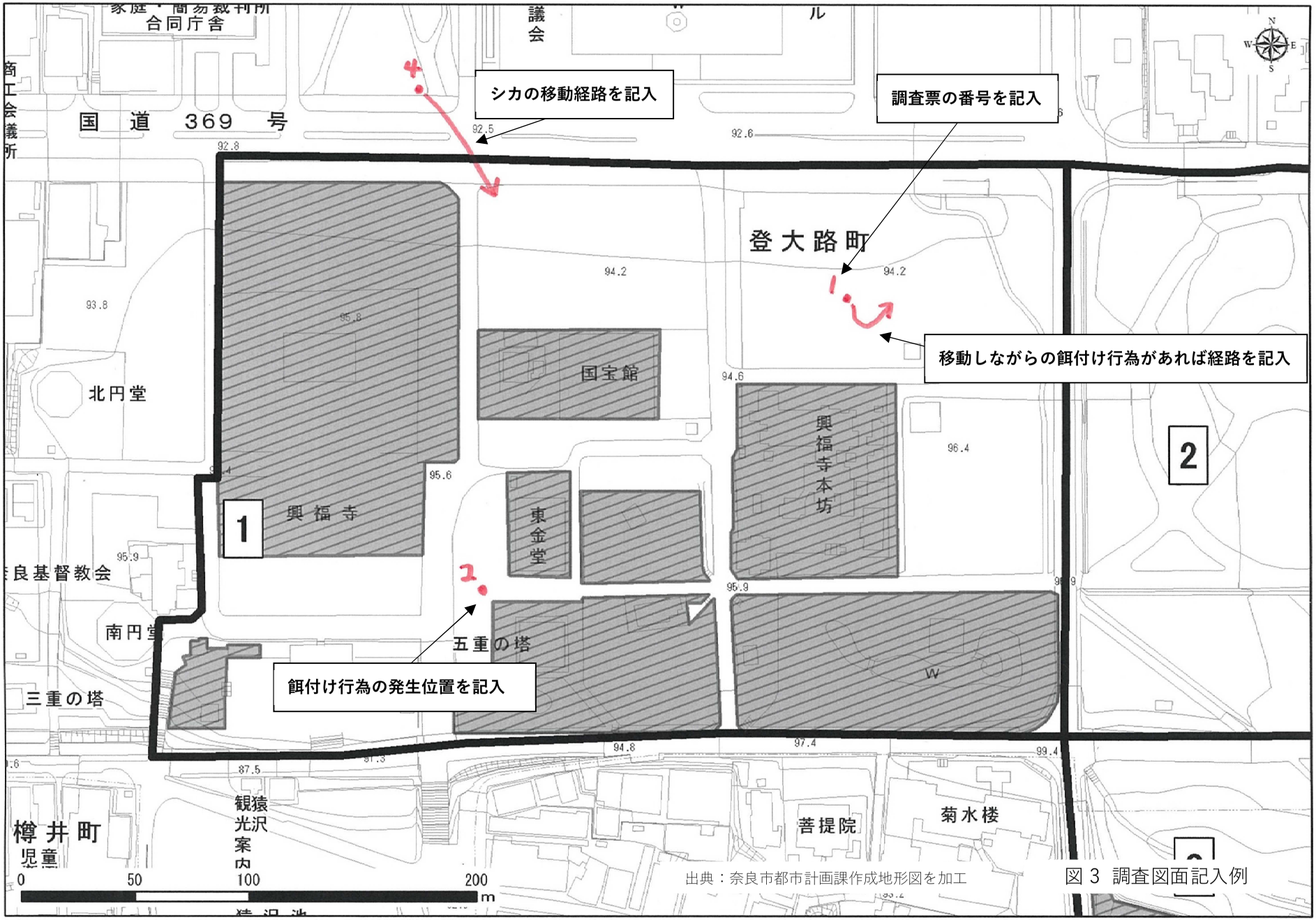

出典：奈良市都市計画課作成地形図を加工

図 3 調査図面記入例

4. 調査結果

4.1. 鹿せんべい以外の給餌件数

調査の結果、99件のせんべい以外の給餌が確認された。前回調査（冬季）の243件と比較し、件数は大きく減少した。区画別の給餌件数を図4に示す。

今回調査で最も確認件数が多い区画は、東大寺南大門前（区画6）、ついで国立博物館周辺（区画2）であった。前回冬季調査で最も確認件数が多い区画は、東大南大門周辺（区画7）、次いで国立博物館周辺（区画 2）であった。最も少ない区画は、いずれの調査でも若草山（区画 12）、次いで正倉院周辺（区画11）であった。

総じて、観光客が集中する範囲と考えられる国道368号線～東大寺～春日大社にかけて鹿せんべい以外の給餌が多い傾向を示した。

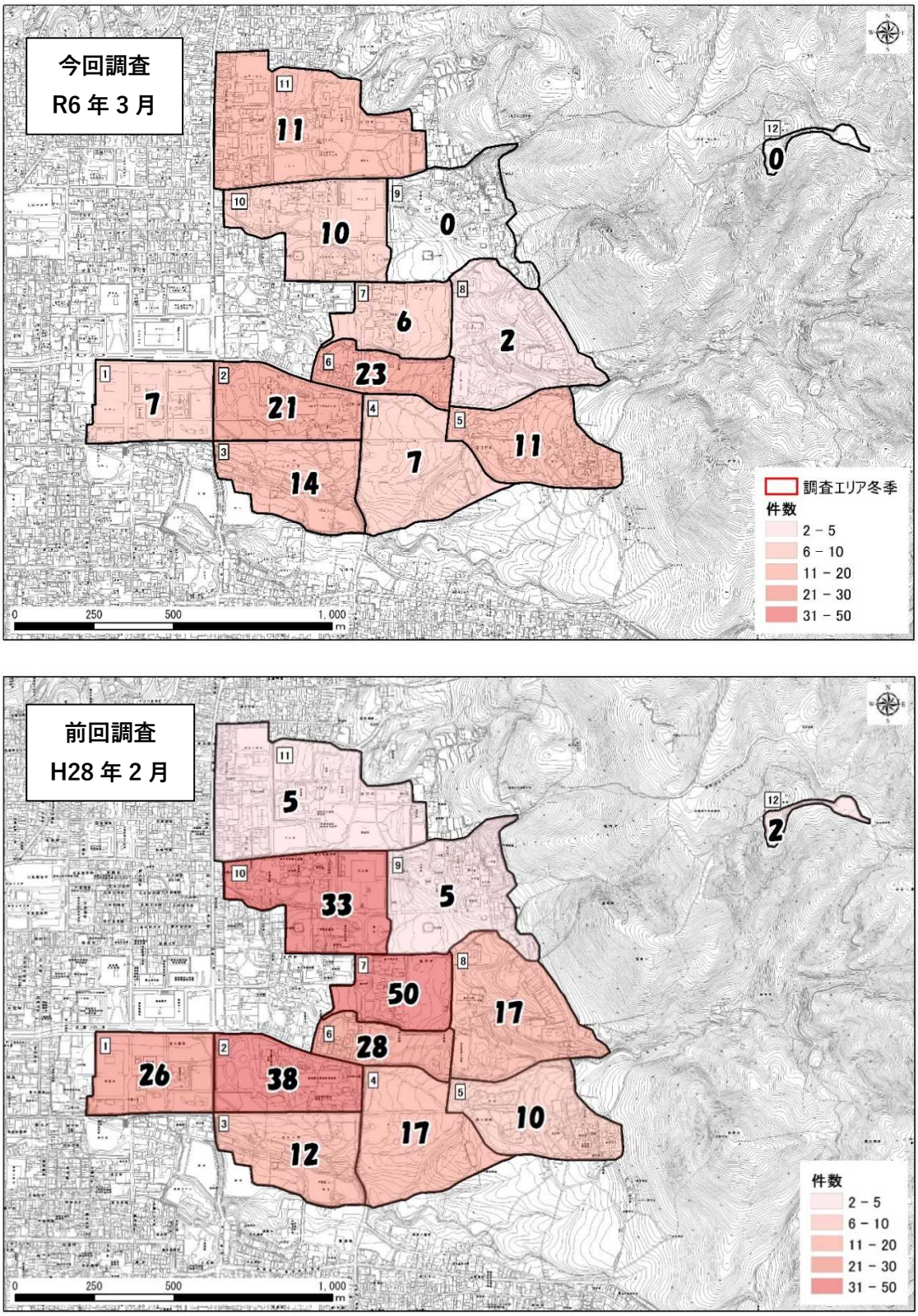

図 4 区画別の鹿せんべい以外の給餌件数（上：今回調査、下：前回冬季調査）

四角枠内数字は区画番号、太字は鹿せんべい以外の給餌件数。件数に応じて赤色を濃く階級分けしている。

4.2. 時間帯別の給餌件数の推移

時間帯別の給餌件数の推移を図 5 に示す。前回調査（H28 年度）では、午前中 10 時台に件数が大きく増え、午後には緩やかに減少する傾向であったが、今回調査（R05 年度）では、午前 9 時台が最も多く、昼にかけて減少し、午後に増加する傾向を示した。

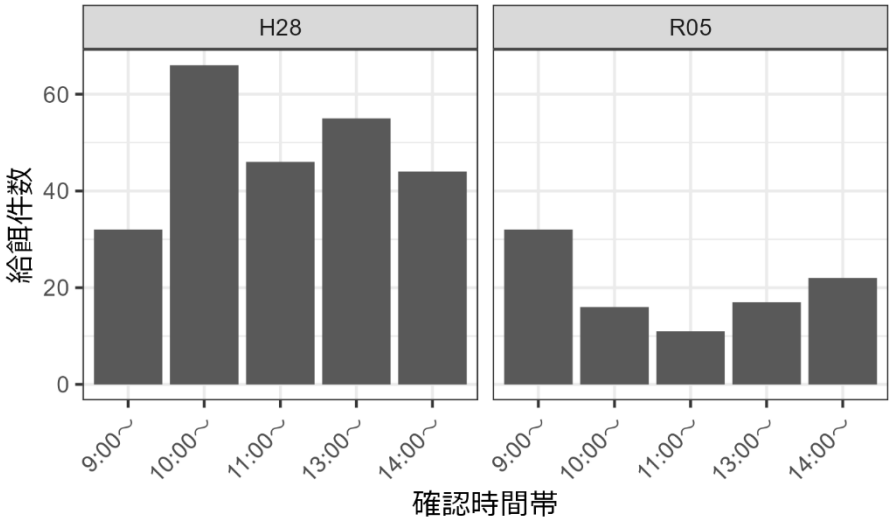

図 5 鹿せんべい以外の給餌件数の時間帯別推移

4.3. 給餌実施者の属性及び給餌を受けたシカの性・齢区分

鹿せんべい以外の給餌実施者の属性及び給餌を受けたシカの性別、齢構成をそれぞれ図 6 に示す。給餌実施者はどちらの年度も成人、老人の順に多く、中高生が最も少なかった。今回調査（R05 年度）の方が、成人の比率が低下し、他の世代の比率が増加した。

国籍は、外見及び会話言語からの判別のため、外国人については正確な国籍判別ではないが、日本人、中国人で 7 割を占めた（図 7）。前回調査（H28 年度）では中国人による給餌が最も多かったが、今回調査（R05 年度）では日本人が最も多く半数以上を占めた。

給餌を受けたシカの性、齢構成は、秋季、冬季ともにメスへの給餌が最も多く、比率に変化はなかった（図 8）。

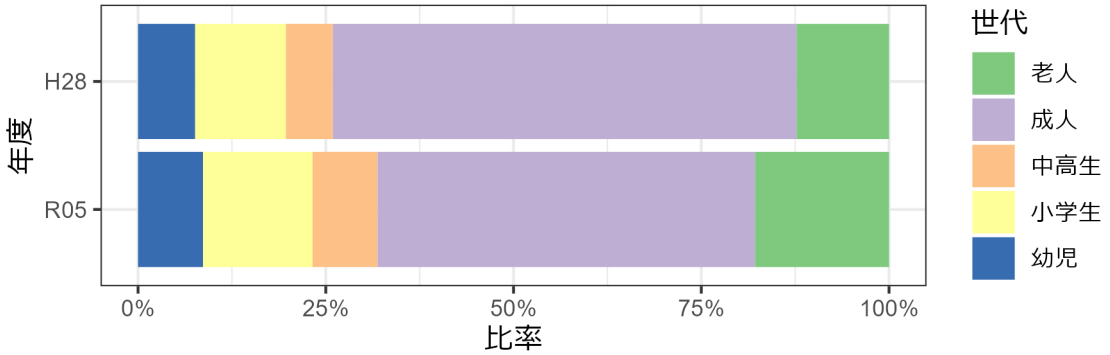

図 6 鹿せんべい以外の給餌実施者の属性（世代）

（H28: N = 477(人)　R05: N = 185(人)）

※世代は、外見による推定であるため、必ずしも本当の世代を示すものではない。

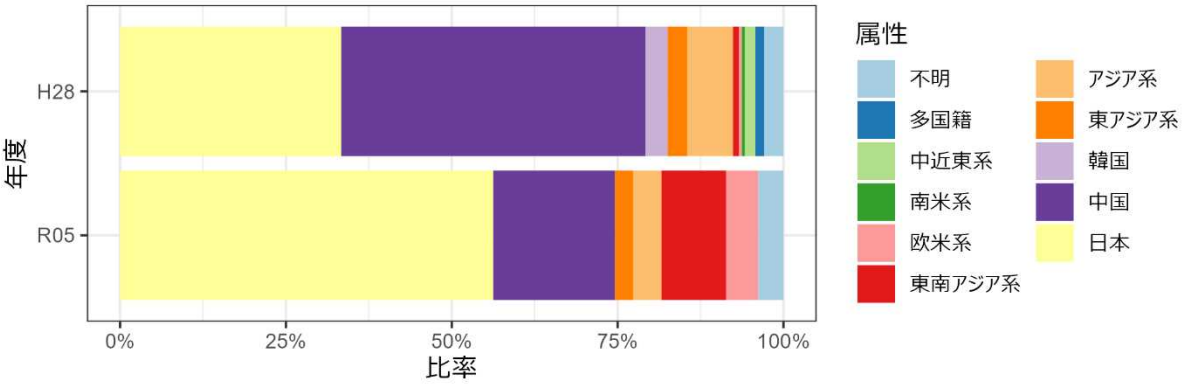

図 7 鹿せんべい以外の給餌実施者の属性（外見等から推定した国籍）

（H28: N = 477(人)　R05: N = 185(人)）

※国籍は、外見や使用言語による推定であるため、必ずしも本当の国籍を示すものではない。
東アジア系：日本、中国、韓国と思われるが、調査時に判別困難であった人物。
アジア系：東アジア系あるいは東南アジア系と思われるが、調査時に判別困難であった人物。
多国籍：1 件の内、異なる国籍を持つと思われる複数の人物による給餌。各国籍の人数は不明。

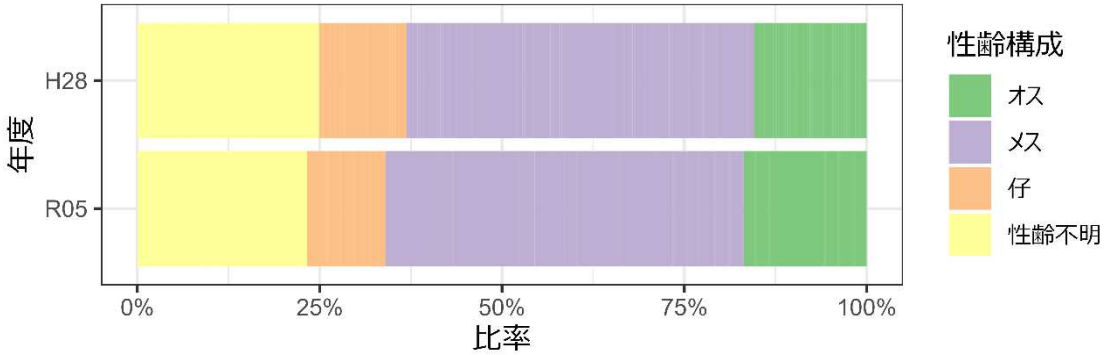

図 8 鹿せんべい以外の給餌を受けたシカの性、齢構成

（H28: N = 1,093(頭)　R05: N = 391(頭)）

4.4. 給餌に使われたものの種類

鹿せんべい以外で給餌に使われたものは、表 3 のカテゴリに分けられた。これらの比率を図 9 に示す。どちらの調査年度も菓子類、ドングリが多く、今回調査（R05 年度）ではドングリを与えている事例の比率が最も高かった。

前回調査（H28 年度）では出店出品物やビニル、プラスチック類を与えていた事例が見られたが、今回調査（R05 年度）では減少した。

野菜・果物については比率の変化はないが、両調査ともに公園外から袋に入れたものをばら撒く事例が見られた。

表 3 鹿せんべい以外の給餌に使われたものの種類

カテゴリ	種類
菓子類	スナック菓子、飴、せんべい、おかき等
ドングリ	ドングリ
紙	パンフレット、地図、紙袋、封筒、その他紙
野菜・果物	野菜類、果物類
植物	葉、枝、花、実、種子（ドングリ除く）
出店出品物	焼き芋、ソフトクリーム、かき氷、みたらし団子
パン	パン
ビニル、プラスチック類	ビニル袋等
鹿せんべいのかけら	販売用でない鹿せんべいのかけら（鹿せんべい行商による給餌）
弁当類	弁当、肉まん、フライドポテト
その他	上記以外、不明含む

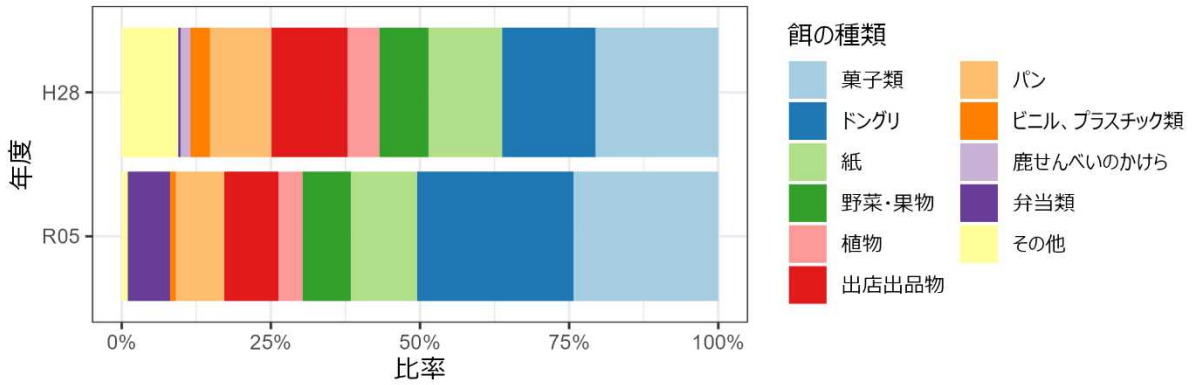

図 9 鹿せんべい以外で給餌に使われたものの割合
（H28: N＝243(件数)　　R05 N=99(件数)）

【今回調査（R05 年度）における、各カテゴリについて特筆すべき事例】

①菓子類

菓子類については、観光客が持ち込んだお菓子を与える事例が大部分を占めた。シカとの写真を撮るために、菓子類を使っておびき寄せる手法が複数事例確認された。

②ドングリ

ドングリについては、ポケットや袋に大量のドングリを保有し、与えている事例が見られた。ドングリの給餌は、奈良県の公式見解では下記の通り示されており、これらの行為は公園内で認められているものではないと考えられる。

- 公園内に落ちているドングリをその場で拾い与えることは認める。
- 公園外から持ち込んだどんぐりは、奈良公園の生態系等に悪影響を与えるので与えてはいけない。
- どんぐりを（一財）奈良の鹿愛護会に寄付することは可能とする。寄付されたどんぐりについては、奈良公園の生態系に悪影響を与えないよう適切に処理し、鹿苑で保護されているシカの飼料の一部として活用する。

③紙

紙については、観光客が持っている観光パンフレット等がシカに奪われる事例が確認された。

④野菜・果物

野菜・果物については、奈良公園外から持ち込み、シカに与える事例が確認された。

⑤植物

植物については、公園内の落ち葉を与える事例が多く確認された。

⑥出店出品物

出店出品物については、焼きいもを与える事例が確認された。

⑦パン

パンについては、奈良公園外から持ち込んだパンを与える事例の他、写真を撮るために、シカをおびき寄せて撮影する事例が複数確認された。

⑧ビニル・プラスチック類

ビニル・プラスチック類については、落ちているペットボトルのプラ包装を食べる事例が 1 件確認された。

⑨弁当類

弁当類については、おかずをシカが食べる事例が確認された。

写真 1 鹿せんべい以外の給餌の事例（前回調査（H28 年度））

ビニル袋に入ったドングリを与える

紙袋を食べられる

公園外から持ち込んだ野菜を与える

店からの廃棄物を与える

米ぬかを撒いてシカを寄せる

アイスクリームのコーンを与える

4.5. 区画間のシカの移動

区画間のシカの移動件数は、前回調査（H28 年度）で 14 件、今回調査（R05 年度）で 8 件確認した。区画間の移動のうち、鹿せんべいを含む餌の誘因によって移動が起きた事例は、今回調査では確認されなかった（表 4）。また、餌の誘引によってシカが移動し、交通事故につながる可能性があった事例についても、今回調査では確認されなかった。

表 4 区画間のシカの移動のうち、餌の誘引による移動と交通事故につながる可能性のある移動件数

		前回（H28）	今回（R05）
1	餌の誘引による移動件数	1	0
2	交通事故につながる可能性のある移動件数	2	0
3	1 かつ 2	1	0

4.6. 人身事故につながるおそれのある人の行動

調査時に確認した、人身事故につながるおそれのある人の行動の件数は、前回調査（H28 年度）で 20 件、今回調査（R05 年度）で 7 件確認した。今回調査で確認された行動の内容は主に以下のものであった。

・餌をじらしながらあげる
・子ども一人で餌を与えさせる
・鹿せんべいを口移しで与える、写真撮影のためにシカを追いかける等、シカへの過度な接触
・犬を連れて歩く

5. 分析・評価

5.1. 鹿せんべい以外の給餌件数の変化

前回調査と比較し、件数が大きく減少した。奈良の鹿愛護会、奈良公園のシカ相談室、鹿サポーターズクラブ、奈良公園事務所によるパトロールや、奈良の鹿愛護会による普及啓発活動、県によるシカとの接し方についての普及啓発等の効果と考えられる。

5.2. 給餌実施者の属性

今回調査では、日本人による鹿せんべい以外の給餌が最も多く、半数以上を占めた。このことは、外国人観光客に対して実施してきた普及啓発の効果と考えられるが、日本人観光客のシカへの接し方についての認識が不十分であることを示唆している。

5.3. 給餌種類

ドングリの給餌比率が増加していた結果について、件数は減少したものの、ポケットや袋に入った大量のドングリを与えている事例が継続して見られた。また、野菜・果物についても公園外から持ち込んで与えている事例が継続して見られた。

これらの行為は認められているものではなく、啓発やパトロール時注意の継続により減らしていくことが必要と考えられる。

6. まとめ

以上のことから、これまでの普及啓発等の効果により、鹿せんべい以外の給餌は減少したと考えられる。特に、外国人観光客への普及啓発の効果が見られていると考えられる。

一方、今回調査からは、日本人観光客の、シカとの接し方についての認識が不十分であることが示唆される結果が得られた。

また、未だに継続する公園外からのドングリや野菜・果物の持込に対しては、継続して注意喚起等を実施する必要があると考えられる。こうした取組の実効性を高める仕組みについても、早期構築が必要である。

今後の課題

- パトロールにおける注意喚起の継続。
- パトロールの実効性を高める仕組みづくり（研修の実施、修了証の交付、県による認定手帳の作成・携行等）
- シカとの接し方についての普及啓発の継続